

シラバス詳細

保健医療福祉科目														
授業科目名														
カリキュラム2012														
IPW演習 Interprofessional Work : Seminar														
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限					
1	100300801				後期				月曜3限					
2	100300802				後期				月曜3限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	編入	理学	作業		社福		福子	行動		検査	口腔	教職	
						専攻	編入		専攻	編入				
1	3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎	3◎	3◎	3○	3◎	3◎		
2	3◎	3◎	3◎	3◎		3◎	3◎	3◎	3◎	3○	3◎	3◎		
履修における注意点・履修条件等														
<p>多学科による混成チームとして、模擬IPWとして演習に取り組みます。授業は、【前半】(10/7～11/25)と、【後半】(12/2～2/3)に分かれます。実習により、検査・口腔は【前半】、理学は【後半】となっています。</p> <p>上記以外の学科・専攻は、学籍番号が“偶数”の場合は【前半】、学籍番号が“奇数”の場合は【後半】になります。間違えないように履修登録して下さい。</p>														
科目責任者	鳶末 憲子				単位数・時間数	1単位 15時間				授業形態	演習			
科目担当者	吉永亜子、金野倫子、須永康代、上原栄一郎、廣渡祐史、廣田千穂、未定													
授業の概要														
<p>多学科混成チームで取り組むIPW演習は、保健医療福祉、教育の多職種による模擬課題や事例を素材として、利用者を尊重した問題解決のプロセスを通じ、多職種理解や多職種連携で重要な葛藤（違和感や困難さなどでも可）や合意形成など、IPWに求められる能力を体験的に修得する科目です。</p>														
学習のねらい														
<p>本科目は、一連のIPE科目（ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論）での学び、すなわち保健医療福祉、教育におけるIPWを支える価値観や態度、スキルなどを統合させ、問題解決のプロセスと同時にチーム形成の深化を体験することを目標とします。毎回のチームと個人によるリフレクションを活用し、IPWでの学びを意図的な試みとして、4年次のIPW実習へと発展させます。</p>														
関連するディプロマポリシー														
学部DP1～5														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員			講演者		
1	<ul style="list-style-type: none"> 利用者を尊重したチームで目指すべき目標を共有できる。 <p>【担当教員】 (看護) 未定 未定 (理学) 須永康代 (作業) 上原栄一郎 (健康) 吉永亜子・廣渡祐史 (社福) 鳶末憲子 (共通) 金野倫子 (研究開発センター) 廣田千穂</p>				第1回 (10/7 12/2) 講堂： ガイダンス、チーム形成、リフレクション				鳶末、吉永、金野、須永、上原、廣渡、廣田、未定			<input type="checkbox"/>		
2～5	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズを理解すると共に、連携から協働、さらに統合されたケアやサービスの違いを認識したディスカッションを実施できる。 求められている各学科で養成する専門職性などの相互理解を深める。 葛藤を経て合意形成に至るプロセスから、IPWに求められる能力を理解できる。 チームの状況に応じた多様なリフレクションのあり方を理解する。 				小講義室にてグループワーク 第2回：10/14 12/9 第3回：10/21 12/16 第4回：10/28 12/23 第5回：11/4 1/6 模擬課題や事例を共有することから始め、利用者のニーズを尊重した問題解決のプロセスを体験する。 その過程にて生じた葛藤（違和感や困難さなどでも可）に対しては、共感的コミュニケーションや利用者ニーズを尊重した前向きなディスカッションにより、相互理解を深めつつ、相互支援しながら合意形成を図るなど、IPWに必要な能力を修得する。 なお、授業内では教室でのディスカッションやワークのみとなるため、毎回、次回までに各自が調べておく事項などを役割分担し、協働作業の方法を実践する。				鳶末、吉永、金野、須永、上原、廣渡、廣田、未定			<input type="checkbox"/>		
6	<ul style="list-style-type: none"> チーム活動の体験を通じて、ケアプランのポイント 				第6回 (11/11 1/20) 小講義室：				鳶末、吉永、金野、			<input type="checkbox"/>		

	や葛藤・合意形成について共有し、その多様性を理解する。	報告会とフィードバック	須永、上原、廣渡、 廣田、未定	
7	・チーム活動の体験や報告会をリフレクションすることにより、本科目の目標について理解を深める	第7回（11/18 1/27）小講義室： フィードバックを受けてのまとめ・リフレクション	髙末、吉永、金野、 須永、上原、廣渡、 廣田、未定	<input type="checkbox"/>
8	・チーム活動の体験を通じて、学びの統合化や今後の自己における学習課題を明確にする。	第8回（11/25 2/3） レポートへの質問	髙末、吉永、金野、 須永、上原、廣渡、 廣田、未定	<input type="checkbox"/>

授業計画に関する特記事項

※ガイダンス（第1回）は講堂 ※第2回以降は小講義室（北棟）202, 205, 206, 209, 210, 211, 213, 214
 ※教員が合同で実施する場合の教室（北棟）101, 113

教科書

教科書：「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」中央法規

参考書、教材等

※以下は、IPW論の参考図書です。
 マイケル・A・ウェスト著・下山晴彦監訳（2014）「チームワークの心理学」東京大学出版会
 エイミー・C・エドモンドソン著・野津智子訳（2014）「チームが機能するとはどういうことか」英治出版
 野中猛ほか著（2007）「ケア会議の技術」中央法規出版

評価方法

出席状況やグループ活動の状況、毎回のリフレクションシート、個人のレポートを総合的に評価します。

授業外における学習方法

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

地域（現場）にて取り組む4年次のIPW実習は、多分にIPW演習での体験に影響されると考えられます。現在、いかなる領域に就職しようとも、多領域での連携・協働が求められています。

全学科の学生が、学習目標を達成できるよう、自らやチームに起こる変化に着目し、4年次のIPW実習に向け、チームでのやりがいを実感できることを期待しています。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/04/01 16:43

印刷

閉じる